瑞中だより

学 校 だより 第14号
令和8年3月19日
瑞穂町立瑞穂中学校
〒190-1211 瑞穂町石畑 1961-1
TEL 042-557-0070

卒業式 式辞

ようやく春の気配を感じられる陽気になり、校庭の桜のつぼみが 一時の寒さに耐え、今まさに 花 開こうと準備している このよき日に、
瑞穂町 副町長 小作 正人 様、
教育委員会 教育長 大井 克己 様
をはじめ、多くのご来賓の方々、卒業生の保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに、本校、第七十九回 卒業式を挙行できますことを教職員一同、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

これまで、様々なご苦労や、ご心配があったと思いますが、3年間、本校の教育活動にご理解、ご協力を賜りましたこと、深く感謝しております。

子供たちは、9年間にわたる義務教育を終え、本校を巣立つ日を迎えました。

さて、あらためまして、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。瑞穂中の校長として、また、君たちの先輩として、私の思いを伝えられる最後です。少し長くなるかもしれませんが、しっかり聞いてください。

卒業生の皆さんは、今、どんな気持ちで、証書を受け取ったでしょうか？

思い返してください。君たちは、本校に入学した時、まだ、マスクの着用が通常な状況下にあったのかと思います。コロナ禍が終息を迎えはしたものの、マスクをなかなか外すことができない日常であったのかと思います。

当たり前が当たり前ではない状況をひしひしと感じた生活を経験し、中学校生活に不安と期待を抱きながら入学したのではないでしょうか。

そのような中、この3年間で、君たちは、大きく成長したと思います。私が君たちと接したのは、3年生としての今年度の1年間だけでしたが、この1年間の成長は、目に見えて、感じました。4月の始業式、私の校歌で始まったことを覚えていますでしょうか。3年生としてのスタートを切った君たちを壇上から見ていると、すごくたくましくなったと思います。

何がそうさせたのでしょうか。

多分、それぞれが、先生方の教えを忠実に実行しようとしたからだと思っています。義務教育は、それでいいのかと思います。時には厳しく、そして、時にはやさしく、そのような対応をしてきた先生方に、君たちが答えようとした結果だと思っています。

君たちは、先生方を信頼し、ついてきてくれました。そして、その教えを自分のものにしよう、自立しようと実践してきました。各目標は、実践するしかないという事も君たちに説いてきました。その結果であったのかと思っています。

学力調査でも君たちは、中学校入学後から全国平均との差を徐々に埋めてきました。素晴らしい努力の結果だと思っています。進路決定においても、次の進路に向けて、各自が、自分で決めた道へ結果を出しました。

これからも、瑞穂中学校で培った教えを実践し、自立していってほしいと思っています。

中学校生活では、表現できないほど、一人一人に様々なドラマがあったことでしょう。楽しいこと、嬉しいこともあれば、辛いこと、悲しいこともあったでしょう。多くのことを学んだはずです。

学習面だけでなく、学校行事、部活動、地域での活動等からも多くの掛け替えのない経験を積んできたと思います。

君たちと一緒に行った奈良・京都への修学旅行は、更に君たちの成長を感じた行事でした。私の中で、君たちとの距離を縮めてくれた行事でもあり、一番の思い出として、心の中に刻まれています。

これからの未来は、ますます変化の激しい時代となるでしょう。

世界では、いまだに争いが絶えず、明日の命が分からない状況の国や地域があります。この機会に君たちも、「戦争と平和」「人権」「多様性」などについて、改めて考え、答えが一つだけではない問いを問い続けてほしいと思います。

これからの社会を生き抜く君たちに必要とされる力とは、情報を正確に読み解き、対話をし、好奇心、探究心を磨くことだと思います。そして、思いをやり遂げるための熱意です。夢を抱き、社会の変化に順応できる柔軟性をみがくことも大切な要素です。

自然災害もいつ自分の身に降りかかってくるかわかりません。当たり前の日常が、如何に素晴らしいものか、考えていってください。

本校の教育目標は、「自学」「忠恕」「勇気」が三本柱です。勉強も君たちにとっては大切な要素ですが、一番大切なことは、人としての成長です。このことを君たちに伝えてきたつもりです。いかにして自分を磨いていくかです。人間性を高めることを常に追求してください。

君たちに伝えた「感謝に勝る能力なし」、この言葉の意味を実践していけば、人間性は高まるはずです。

人は、学ぶことで、進路の選択肢が広がります。

君たちの戦いは、ここからがスタートです。まずは、自分に打ち勝つこと、自分に負けないことです。人生、常に自分との戦いです。卒業するということは、人生の大きな節目であり、次の新しい目標に向かってスタートする、大切な時です。

そして、「挨拶、マナー、身だしなみ」、「自信をもて、但し、天狗になるな」、自信は、日々の努力と挑戦から生まれるもの、どんなに、自信をもっても、調子に乗るな、おごり高ぶるな、この1年間、君たちに伝えてきた言葉です。

更に、もう一つ言葉を伝えます。それは、「あなた方自身を照らす光はあなた方自身の中にある」、自分を輝かせるのも自分自身なんだという事です。

一生の間に、出会える人は、そう多くはありません。人は一人では生きていけません。出会った人は、本当に貴重な存在です。人生、出会いと別れの繰り返しです。ぜひ、出会った人、友人、仲間を大切にしてほしいと思います。

保護者の皆様には、子供たちが大人になるまで、本当の意味で自立するまで、もうしばらくの支援をお願いします。子供たちを見守り、子供たちが迷った時には、背中を押してあげられる存在でいて欲しいと思っています。

結びに、町の宝である瑞穂中学校卒業生の未来が、輝かしいものとなりますことを祈念し、また、瑞穂町を支える存在になってくれることを期待し、式辞といたします。君たちは、私の誇りとする後輩です。君たちが、大好きです。また、会いましょう。

令和八年三月十九日

瑞穂町立瑞穂中学校
校長　森田　正男